

学校法人 東京滋慶学園 ベルエポック美容専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【2024年4月16日実施】

学校関係者評価委員集約資料

2023年度自己点検自己評価(2023年4月1日～2024年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価		自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1				優れている…3 適切…2 改善が必要…1	学校関係者評価委員よりの御意見
1 教育理念・目的・育人人材像	1 理念・目的・育人人材像	2		<p>ミッションと理念に基づいて、時代、業界の変化に対応した事業計画に沿って毎年学校運営を行っている。事業計画で考える中期計画は、学校の未来を表現したものであり、そこで考えられた組織目的、運営方針、実行方針、実行計画が学校の成長につながってきた。</p> <p>また理念、経営者の言葉、学校の考え方や組織文化を、組織内に浸透させるとともに、新たに組織に入ってくる人にも外部にもわかりやすく示していくことにより力を注いでいる。このことが、学園、学校の活性化につながっていると考える。</p> <p>職員に対して、これまで以上に理念等の浸透には注力する必要があり、また学生にも同様に伝えていく必要がある。</p> <p>今後さらに学生保護者、業界、地域、高校の4つの信頼の信頼を得られるよう、学内外での活発な活動を行う。</p>	<p>業界の変化に対応するため、育人人材の見直しは、常にかつ組織的に行われなければならない。本校では、その専門職として、ファカルティ・ディベロップメントコーディネーター(※)を置き、育人人材像から学科の教育内容の見直しを行っている。</p> <p>※ファカルティ・ディベロップメント・コーディネーター(FDC)</p> <p>専門学校における教育の構成要素</p> <p>①養成目的と教育目標(社会ニーズと卒業時到達目標)</p> <p>②目標達成プロセス(カリキュラム・学年歴・時間割・シラバス・コマシラバス)</p> <p>③目標達成素材(教科書・教材・教育技法)</p> <p>④目標達成支援人材(担任・専任教員・講師)</p> <p>⑤評価基準(透明性・公平性・競争性)を学校・学科の独自性・有効性に役立つように改革する核となる人材。</p> <p>業界連携の際には理念、教育の考え方を伝えた上で、ご協力をいただいている。</p>	2	<p>学校のミッションと理念をベースにした事業計画の立案と中期計画を通じて、学校の未来を明確に描き、組織目的や運営方針を実行に移してきたことが、学校の成長に繋がってきたことが理解できた。職員・学生への理念の共有・伝達はもちろんのこと、今後も学生保護者、業界、地域、高校とのコミュニケーションを活発に行い、より一層学校の価値を高めてほしい。</p> <p>日々変化する社会情勢と業界のニュース、そして高校生の進路選択の多様化と子育てをする保護者の意識の変化の中での学校運営は困難が多いと推察いたします。それでも学校運営にあたり、中長期的事業計画をたて、建学の理念にそった教育がなされています。</p> <p>変化の多い美容業界ではあるが、基礎を大事にしつつ各学科において「今」を取り入れる授業内容をしていると感じた。技術だけでなく卒業後社会に出た時の人間性を学べる学校だと感じる。</p> <p>今後、業界としても協力出来る事があれば積極的に協力していきたい。教育方針なども常に時代に合わせてアップデート出来れば良いと思う。</p> <p>教育の構成要素においては確実にステップアップされていると感じる。更なるアップデートを期待する。</p>
2 学校運営	2 運営方針	3		<p>法人としては、事業計画・運営方針を定めることを最も重要視しており、事業計画・運営方針を定めている。</p> <p>明文化、文章化され定められた事業計画・運営方針を基に、学校運営に関わる全ての人に周知徹底すること、そして、共感してもらうことに、年間通じ力を入れている。理念、方針の浸透を深めるため、各種の研修(教職員・講師)、会議(運営会議・学科会議・課別会議等)を行い、全教員が納得して学校運営に携わる環境作りをしている。このことが、学校・学科の教育成果に繋がっていると考えている。常に市場ニーズに対応した事業計画・運営方針をこれからも作成するよう努める。</p>	<p>学校運営をマネジメントシステムの準備(計画)と実行として捉え、マネジメントスキル、知識、そしてリーダーとしての研修を重視している。マネージャーは組織運営者であることを前提としている。</p> <p>年度当初には1週間の研修期間を設け、運営方針、事業計画について共有する場を設けている。</p> <p>また、経歴の浅い教職員が多いため、毎月1回の全体会議で教務研修を実施し学園・学校の理念周知の為に研修を実施するとともに、OJTやONOを通して、実践的に行っていく。</p>	3	<p>全体的に計画的、かつ組織的に決定されている。時代の変化に応じた学校運営が求められる中で、柔軟な取り組みとより多くの関係者の意見が集約されるようなシステム作りが重要になると思われる。</p> <p>学校の運営方針や事業計画は法人理事会そして評議会で十分に審議されています。また各学校の評価も考慮しながらさらに対応を考えている組織運営がなされていることは高く評価できます。また目標の設定も単なる数値目標ばかりでなく、情意効果も評価するなど現場サイドを見据えた目標と評価がなされています。現在の学校教育では評議会の機能重視ですからさらに評議会の重要性を表に出すことを期待します。</p> <p>経歴の浅い職員も、自身の視点で意見を出しより良い環境にして頂きたい。</p> <p>学校運営については、細部にわたり立案から実施に至るまで行われている。情報共有、運営に優れていると感じる。</p>
	3 事業計画	3		<p>法人としては、事業計画・運営方針を定めることを最も重要視している。その意識で毎年、法人として事業計画・運営方針を作成している。事業計画を立てること、運営方針を定めることは、常に同時に考え、実践している。明文化、文章化され定められた事業計画・運営方針を基に、学校運営に関わる全ての人に周知徹底すること、そして、共感してもらうことに、年間通じ力を入れている。</p>	<p>事業計画を教職員が自主的に計画し決定し全員で共有する。その上で職場運営が実行に移されていく。</p> <p>その運営のチェック機能として、①学園の常務会議、②学校ごとの戦略会議(運営責任者会議)、③運営会議(学科責任者会議)、④学科会議、部署会議があり、計画遂行の確認をする。問題点を早期に発見し、対策を立て、実行するプロセスを確立している。</p>	3	
	4 組織運営	3		<p>理事会、評議員会を定期的に開催し、必要な審議について議決を行っている。学内の意思決定に関しては、重要事項の優先順位と対応する機関が明確である。毎年事業計画策定という厳しい作業があることで、目標志向性の高い組織運営が行われている。</p>	<p>理事会、評議会、議事録作成、寄付行為は、法人が運営する複数の学校と連携し、合理的に作成、管理する。</p> <p>会議については下記2点を重視している。</p> <p>①会議の進行ルール</p> <p>②議題発信と議事録配布・保管のルール</p>	3	
	5 人事・給与制度	2		<p>採用計画、人材育成計画は事業計画で定められている。</p> <p>採用にあたっては、学園本部が中心となり、採用広報や、採用試験を実施している。採用は採用基準の基、厳正に実施している。その後の教職員の育成には、もっとも力を入れている。目標管理制度を基本とし、これと対応して成果主義を取り入れた賞金制度を設けている。多様化してはる働き方の中で、より一層、それらに対応した制度が必要。</p>	<p>数字目標を達成する過程の業務や、数字だけでは評価できない業務は情意効果として評価している。</p> <p>目標は常に、健全な学校運営・学科運営を実現できているかという視点で立て、評価も公平に行い、学校・学科の成長と教職員の成長に結びつくようになっているマネジメント職と専門職での人事制度を構築中である。</p>	2	
	6 意思決定システム	3		<p>意思決定システムは事業計画において明文化している。意思決定を行う会議の進め方、結果の取り扱いを重視している。</p> <p>また会議毎に参加者は選抜され、その中で各リーダーに権限は委譲されている。</p>	<p>会議は</p> <p>1. 法人理事会・評議員会 最高決議機関</p> <p>2. 学校戦略会議 運営方針の起案会議</p> <p>3. 法人学校運営会議 運営方針の問題を発見・対策立て会議</p> <p>4. 運営会議 学校の目標達成に向け、発生する問題解決会議</p> <p>5. 学校全体会議 決定事項の周知、教務研修の実施</p> <p>6. 学校学科会議・部署会議 部署の問題解決会議</p> <p>7. グループ各委員会会議(広報委員会・総務人事委員会・就職委員会・国家試験対策委員会・学科別教育研究委員会)</p>	3	
	7 情報システム	2		<p>業務効率化は進んでおり、職員の残業時間も年々減っている。</p> <p>システムを導入し効率化を図っている。</p> <p>効率化された部分は学生対応に充てられている。</p>	<p>便利になった部分も多いが、様々なシステムで状況共有、業務効率、管理を行っているが、今後データの一元化が課題であり、学校、法人として取り組む必要がある。</p>	2	

学校法人 東京滋慶学園 ベルエポック美容専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【2024年4月16日実施】

学校関係者評価委員集約資料

2023年度自己点検自己評価(2023年4月1日～2024年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価		自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1				優れている…3 適切…2 改善が必要…1	学校関係者評価委員よりの御意見
3 教育活動	8 目標の設定	3		教育指導要領に基づき、学園の教育理念に沿った教育を実施している。教育課程編成委員会のご意見を基に毎年カリキュラム更新もしている。	学科の特性を加味し、毎年見直しを行い、養成目的、教育目標を明示している。	2.5	教育指導要領に基づき、長期的な視点に立った教育活動が行われている。資格取得に関しては現代の学生に合わせた指導体制の強化とフォローアップに期待し、全員現役合格の目標を達成してほしい。 学校法人としての事業計画、運営方針が明文化文章化されて全教職員に周知徹底されていることは組織体として高く評価できます。また計画の母体となる理事会や評議会も定期的に開催され、必要な事案についてはグループ各委員会、学校学科会議などの会議研修で運営されていることも評価できます。 新入生は今までと違った環境で学校生活をおくるのは大変だが授業が楽しく充実しているから国家試験の合格率などの数字として反映されていると感じる。 即戦力となるよう、現場の意見を取り入れた教育目標や実行計画にして頂きたい。国家試験については就職にも関わる為、現役合格はもちろん、不合格者のフォローもしっかりして頂きたい。
	9 教育方法・評価等	2		養成目的・教育目標を明確にした人材育成を行っている。今後はキャリア教育やクラス形成に力を入れて、目的意識喪失による退学防止などにも反映していきたい。職業観の補え付けが重要である。	養成目的 教育目標 担任マニュアル 学生サポートブック クラス事業計画		
	10 成績評価・単位認定等	2		成績評価・単位認定については、教育指導要領と学生便覧に明記している。それらに基づき、評価・認定を行っている。また実技授業などの評価に関しては、点数配分を可視化や、ルーブリック評価を用いる等で明確化に努めている。	教育指導要領 学生便覧		
	11 資格・免許取得の指導体制	3		資格取得に向けては、全員現役合格をさせるために低学力・低技術者のフォローをどのようにやっていくかがポイントになる。国家試験不合格者については国家試験受験をサポートしている。どの資格においても不合格者のモチベーションが課題となっている。	再支援プログラム 学園の国家試験対策センターや 姉妹校と合同模試を実施など、対策、検証を行い、合格に向け支援している。		
	12 教員・教員組織	2		法律に則った教員配置はできている。教授力の低い講師は高い講師とOJTを組み教授力向上に努めている。教員と講師でしっかり連携を取り、教育向上に努めている。	講師会議 学科ごとの科目連絡会		
4 学修成果	13 就職率	2		就職率は、学科ごとに目標を設定しており、「就職活動状況表」のデータで学生一人ひとりの状況を確認している。入学後から業界研究、就職講座として、職業理解を深めるために、業界から講師を招いてを定期的に特別授業を開催。学内説明会も積極的に実施中。データはキャリアセンターが管理。採用活動の早期化により、就職活動の準備が前倒しになってきている。また、コロナ禍、デジタル化により採用試験内容も動画やオンラインと変化してきており、対応した支援が必須となっている。	採用活動の早期化が伺える。美容業界では、特に、美容部員・エステティシャン・美容師がその対象で、早期インターンシップ等も早い企業が増えている。通常6月以降が主な採用活動時期であったが、現在では早い企業で3月中旬に選考を行う企業も増えている。売り手市場ではあるが、人気がある企業への志望が多いので、これまでの実績からそれぞれにあった支援を行っている。	2.3	就職率や資格・免許の取得率は、入学希望者を集める上で非常に重要な指標になると思われる。この数字を維持・向上させるためには、担当部署・担当教員だけでなく、学校全体での目的意識の共有とそれに向けた取り組みが必要になるので、今後も更なる組織体制の強化が望ましい。 高い就職率は業界と理容美容の関心が高い状況に加え、卒業生の実績評価が高いから評価いたします。ただ専門学校に進学する学生のうち何割かは基礎学力や人間関係に課題を抱えている場合がありますから、授業や資格免許の取得への指導はますます難しくなる時代です。教職員の連携が大切ですので大いに期待いたします。 近い目標となる卒業生の活躍を見れる環境は刺激となり、目標になると感じる。目標達成の為に何が必要なのか学生に伝える事により、資格・免許の取得率が上がると感じた。目標が明確であれば、1日1日の従業員の重要性を感じられると思う。 就職率も重要だが、その後の内定辞退や、離職率も重要になる。そこに向けての取り組みも力を入れて頂きたい。国家試験については、100%合格を目指して頂きたい。 学校運営としては、学習成果のグレードを上げていく事が最大の目標になると感じる。学生が、在学中に培う対人関係によって客観的に自分を見る機会が増える事を望みます。
	14 資格・免許の取得率	2		定期的に模擬試験を開催し低技術、低学力者に対して早い段階で補習授業を開講している。合格率については全国平均と比較している。学科により多種多様な資格取得を目指す、全員合格できていない現実がある。専門学校で「資格」は大きな意味合いを持つので、合格率向上に努める必要がある。	国家試験に関しては筆記試験に関してのモチベーション低下、出席率が低いことが課題。		
	15 卒業生の社会的評価	2		近年では、独立した卒業生も多く、美容業界の発展、若手育成に力を入れている卒業生が増えている。また、美容の職業に不可欠となってきたSNSにより、卒業後1～2年で話題の美容師として活躍している卒業生も多数でてきている。学校としてはそういった卒業生の支援を強化していきたい。	・入学案内の卒業生ページへの掲載 ・美容専門誌:チエキチヨキ × ベルエポック美容専門学校の発行 ・卒業生による特別授業 ・同窓会の実施		

学校法人 東京滋慶学園 ベルエポック美容専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【2024年4月16日実施】

学校関係者評価委員集約資料

2023年度自己点検自己評価(2023年4月1日～2024年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価		自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1				優れている…3 適切…2 改善が必要…1	学校関係者評価委員よりの御意見
5 学生支援	16 就職等進路	3		就職支援の指標として、就職内定率と合格率があるが、年々上昇してきている。SNSからの採用エントリーや、動画での自己PRなど入学時からの指導が重要となってきた。	受験した学生が記入している「採用試験報告書」を取りまとめ、年度の傾向と対策を授業内で実施している。また学生が閲覧しやすいシステムを構築。	2.3	就職内定率と合格率の上昇は高く評価できる。一方で中途退学率を今後下げる為にも、現在のフォロー体制にプラスして、保護者との連携に関して具体的なアプローチ方法を見つけていくことは必要不可欠である。高い就職率は業界と美容美容の関心が高い状況に加え、卒業生の実績評価が高いからだと評価いたします。ただ専門学校に進学する学生のうち何割かは基礎学力や人間関係に問題を抱えている場合がありますから、授業や資格免許の取得への指導はますます難しくなる時代です。教職員の連携が大切ですので大いに期待いたします。不登校の学生が多い時代に、学生一人ひとりに丁寧な対応していただくことに感謝。入社してすぐに辞めてしまう人も居る為、学生時代から就職に対する動機づけ強化をして頂きたい。学生が相談できる場所がある事は良いと思う。学生、保護者が参加できるイベント行事があると良いと感じた。就職の過去データがある事により、準備が出来試験本番で実力を発揮しやすい環境を作っている。スクールカウンセラーの認知を学生運にしてもらう工夫が必要だと感じた。専門職の技術習得も大事だが、人としての成長が出来る事が大切だと感じる。
	17 中途退学への対応	2		中途退学率は昨年より増加してしまった。理由としてはメンタル面、友人関係、進路変更等。入学から半年のクラス作り、目的意識、モチベーション向上がとても重要である。定期的な担任面談の実施や、職員、講師との共有等、長欠になる前の対応が不可欠である。	クラス事業計画作成を各担任が作成し、クラス運営を行う。クラスが安心安全の場となるようなクラス作り。		
	18 学生相談	2		学生の各種相談に対応できる体制を整えている。学生の相談内容が広域になり対応の際に専門的知識を伴うケースが多いため、スクールカウンセラーや留学生担当の職員の配置など対応できるようにしている。	SSC(チューデント・サービス・センター)と連携をして学園として学生相談室を設置しているが、利用率が低いため、積極的に利用を促す。留学生担当教員も設けている。		
	19 学生生活	3		奨学金利用や健康管理、学生寮、サークル活動などを学生の生活支援の一環として実施している。養成校との直接の関わりはないが、美容分野への就学の機会や学校への帰属意識、学科・学年を超えた関係性の構築となり中途退学の抑止につながっていると思われる。	公的奨学金(日本学生支援機構・東京都英資金) 医療機関 一人暮らしサポート サークル活動		
	20 保護者との連携	2		学校として積極的に保護者とのかかわりに努めている。しかし学校について関心を持たない保護者に対してのアプローチをどのようにするか大きな課題となっており、中途退学率にも影響している。	保護者会等も実施しているが、左記に記載しているような保護者の参加が見込めない。		
	21 卒業生・社会人	2		卒業生に対する支援体制は同窓会と就職サポートの2点になる。卒業生に対しては、モデルの協力や施設の貸出しなどを提供することで、卒業生のキャリア開発の一環を担っている。また同窓会組織を活発化して、卒業生に対するリカレント教育の場を提供していきたい。	滋慶学園グループとして、多くの職種を育成しているため、美容以外の分野についても学び直すことが可能。		
6 教育環境	22 施設・設備等	2		実習授業に力を入れている本校にとって、学内実習室が実際の現場で使われている設備を揃えていることが、必要不可欠である。実践教育のための学内施設、設備は整備されていると考えている。各教室、実習室は、各種の申請に必要な条件を全てそろえた環境として、承諾を得ている。	経年劣化の破損箇所等について修繕を実施。経年劣化した備品については更新している。定期に点検、メンテナンスを行っている。	2.3	実習室の環境整備は非常に重要な点であるため、今後も時代と現実にマッチした実習室作りが必須だと感じた。また、学外実習の必要性も共感できたため、受入側を含めた教育フローを構築に期待したい。時の批難と教職員および学生の人数確認の訓練は、今まで以上に必要な事だと思えます。学外実習やインターシップでは業界団体での活動が中心だと思っていますが、高等学校や通信制の学校の文化祭・通学時に学生が生徒や、その学校の教職員のかたにモデルとなって戴いて実習することを考えても良いのかも知れません。大きな反響があると思しますので期待します。より、即戦力となる力がつく実習をお願いしたい。教育環境はとて良いと感じる。
	23 学外実習、インターンシップ等	2		現場経験ができる実習は積極的に実施している。より多くの学生が参加するような教育フローを構築していきたい。	今以上に学外で実習できる環境を強化して、多くの学生が参加できる体制の構築。		
	24 防災・安全管理	2		防災、火災訓練を実施し、学生、教職員、講師へ非難手順や方法を指示し実施している。救急時における知識の習得と意識付けは出来ている。職員向けに消防訓練や防水板設置の講習を行っている。AEDを各校舎に設置し使用方法の研修を職員間で行った。	・防災訓練実施。 ・設備、備蓄の点検。		
7 学生入 れ募 集 と 受 け	25 学生募集活動	3		学生募集活動は、学則を基に、その年の入学案内、募集要項の通りに適正に行われていると考えている。	顧客となる「原宿が好き、美容が好き、ファッションが好き」の高校生を対象に、その顧客にあった価値を提供している。(価値：原宿コラボレーション) 授業内容や体験授業でその体験化を図り、入学前教育として職業の理解を深めてもらえるように努め、HPやスマホ、SNSなどで多くの人に見てもらえるように情報発信に注力している。	2.8	顧客となる高校生の志向に合わせて、学校の特色、地域の特性生かした情報発信およびアプローチができています。今後も他校との差別化を図り、入学希望者の確保に繋げてほしい。誰もが羨む都内の一等地に設置されているにも関わらず、募集定員に達することができないことは大いに募集の形態を見直さなければなりません。私学ですから在学生の納付金が学校運営の基盤なのです。入学者の減少は屋台骨の税源の減少になるのだと自覚が必要かと思えます。立地条件に満足することなく募集を展開することを期待します。もっと多くの高校生に美容の仕事に興味を持ってもらえるよう、業界としても力を合わせ盛り上げて行きたい。
	26 入学選考	3		入学選考の基準は明確に定められ、適正に入学選考が行われている。入学者数の予測を踏まえ、財務を考えている。	AO、高校推薦、一般と志願者に合わせた選考を適正に行っている。		
	27 学納金	3		学納金については算定の内容を明確にしておりかつ毎年見直しを行い決定している。入学辞退者の授業料の扱いも文部科学省の通知趣旨に則って行っている。	入学金、授業料、諸費用を分けて学費徴収することで、教科書・教材費に関して無駄な費用請求を無くしている。入学辞退者に関して3月31日までの申請に関しては、授業料を受験生に返還している。		

学校法人 東京滋慶学園 ベルエポック美容専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【2024年4月16日実施】

学校関係者評価委員集約資料

2023年度自己点検自己評価(2023年4月1日～2024年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価		自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価		学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1				優れている…3 適切…2 改善が必要…1		
8 財務	28 財務基盤	3		短期・中期・長期の収支計画を立て財務状況の健全維持に努めている。収支・キャッシュフローの状況についても適宜確認できるようになっている。学外に学校会計を担う株式会社があり財務面での処理については中立公正の立場で会計処理を実施しているの不正行為も未然に防げるようになっている。	学校法人東京滋慶学園財務諸表	3		安定した財務基盤が、安定した学校運営につながっていると強く感じた。今後の法改正にも柔軟かつスピーディに対応できる機動力は非常に優れた体制が整っている印象を受けた。財務関係については、東京滋慶学園を母体としていますので全体的にはまったく不安材料は見当たりません。同時に会計監査も厳格に行われ、合わせて公認会計士のチェックと報告が的確に行われていますので、これも高く評価できる材料です。
	29 予算・収支計画	3		厳しいチェック及び評価が行われ、いわゆる債務超過になったり、資金不足になったりする状況にはなっていない。そのため、中長期的には財務基盤は安定し、本校の学校運営も安定していると考えている。5ヵ年計画に基づいた収支計画は中長期的な視点で物事を考えることができるため、財務基盤の安定に資するための大規模な計画もじっくりと立てることができ、この方針は今後も続けていくと考えている。	本部による財務状況のチェックを毎月受けている。また監事及び公認会計士による監査、行政への報告などを行っている。			
	30 監査	3		現在のところ、監査報告書は適正な計算書類を作成している旨の意見が述べられており、適正な計算書類を作成していると考えられる。監査を有効に実施してもらうために、証憑書類の整理、計算書類の整備、各種財務書類の整理整頓に努めている。	私立学校法上義務付けられている「監事による監査」を受けているが、それに加えて、補助金対象ではない当学校において「公認会計士による監査」も受けている。これによって適正な計算書類の作成とその信頼性の確保に努力している。			
	31 財務情報の公開	3		学園の特徴は、法改正の変化に迅速に対応できる機動力である。今後ともどんな法改正にも迅速に対応していくと考えている。	「財務情報公開規程」「情報公開マニュアル」によって、秩序整然たる順序に基づいて情報公開に対処している点が特徴として挙げることができる。			
9 法令等の遵守	32 関係法令、設置基準等の遵守	2		法令や設置基準の遵守に対する方針は文章化し、法令や設置基準の遵守に対応する体制作り平成18年度で完全に整備させた。また、教職員の啓蒙として、法令や設置基準を遵守に対する教育または研修を、定期的に実施している。	監事による毎年の監査に際して、業務監査の対象としてコンプライアンスの実施状況についても監査してもらっている。	2.9		適正かつ透明な法令等への取り組み体制が整っていると感じた。学校評価等を含む情報公開にしても、適切な手順・方法で実施をされており問題ないと感じた。学校教育法や関係する法令を遵守して学校の運営がなされています。また自己評価や学校評価を公開して次の改善計画を行うなど前向きな姿勢を感じますので高く評価したいと思います。
	33 個人情報保護	2		社会的にも個人情報流出のニュースが目立ち、必然的に学園主導ではあるが個人情報の取り扱いの意識向上につながった。また、個人情報の取り扱いに関する情報整理やルールの策定、職員の研修などを整備したことにより管理の透明性を図ることができた。	個人情報管理シート CPA研修 CPO研修 TRUSTe 学内でも定期的な研修等の実施が必要。また法令の変更等の対応も必須。			
	34 学校評価	3		学校評価は適切な手順・方法で実施をされており、評価結果についても学校情報の一部として公開をしている。	HPIにて情報公開している			
	35 教育情報の公開	3		自己点検・自己評価の結果を学校情報としてホームページ上に公開している。情報公開という点では公開手段は現社会情勢に合った方法をとっており、実施内容は問題ないと考えている。	学校ホームページに下記情報を掲示している。 ・学校情報:トップページよりリンク ・職業実践専門課程:トップページよりリンク「別紙様式4」への導線を敷いている。			
10 社会貢献・地域貢献	36 社会貢献・地域貢献	2		学園で掲げる4つの信頼に「地域の信頼」がある。また、学校特徴として「原宿がキャンパス」と掲げている、そのため、原宿の地域貢献、地域発展には積極的な活動を行っている。今後は、さらに地域に根付いた社会貢献を行っていききたい。	原宿コラボレーション	1.8		「原宿」という立地と最大限に活かした学校運営に今後更なる期待をしている。地域貢献という面では、地域清掃などのボランティア活動はもちろんであるが、商業施設とのコラボレーションなどへの積極的な取り組みも必要だと感じた。地域が原宿なので社会貢献やボランティア活動が、学校周辺に偏りがちです。在校生の出身地が神奈川や千葉そして都内各所なら、各地のイベントや老人施設での活動を積極的に行うことを勧めます。そのことが学校のPRにも繋がるものと思います。地域清掃のボランティアは継続して頂きたい。年々原宿コラボレーションが多くなっていくと良い。地域の様々なイベントへの説教的な参加を継続頂きたい。
	37 ボランティア活動	1		現状定期的な地域清掃のみとなっている。地域の施設等での活動も積極的に行っていききたい。	定期的な地域清掃 イベント等での美容施術での貢献			